

## 協議事項

### 今後の柏市の文化振興について

報告事項での令和3年度事業報告及び令和4年度事業予定を踏まえて、委員の方々より御意見をいただきたいと存じます。

特に以下3点について、今年度の取組みの柱にしたいと考えています。

#### ①アフターコロナを見据えての文化・芸術活動の見直し

今年度は今後のアフターコロナ、ウィズコロナの状況を想定し、感染症対策を行いつつも、文化芸術活動に力を入れて活動していきたいと考えます。

柏市では、第5次柏市芸術文化振興計画において、「誰もが芸術文化に触れることのできる機会づくり」を目指しており、対面集客での大規模なイベントだけでなく、市民にとってより身近に文化・芸術活動に触れていただく機会を創出することが重要と考えます。

そのために今年度は、市民が文化・芸術活動にどのようなニーズを有しているのかを、アウトリーチコンサートを通じて検証していきたいと考えます。

そのために、会場についても、既存の公共施設に固執せず、地域の企業や福祉施設等を活用するなどし、対象者の裾野を拡大していきたいと考えています。

委員の方々の御意見をいただければと存じます。

#### ②情報発信の強化

4月より、柏市のホームページのトップ画面の情報検索メニューに「歴史・文化・芸術」を表示できるようにし、文化課のページにアクセスし易いように変更しました。また、文化課のトップ画面に「かしわミュージアム」を始めとするバナーを表示しています。

今年度は情報の適宜更新、動画の積極的な配信を行い、様々なデバイスで気軽に音楽・芸術が楽しめるコンテンツの提供を進めるとともに、各種イベントへの集客の向上を目指し、対象者に向けた効果的な情報発信の手法を分析・検討し、実施・検証していきたいと考えます。

ライブでの集客力やデジタルコンテンツへのアクセス数を増やし、文化・芸術活動の裾野を広げるために、どのような工夫が必要か、芸術文化団体等の運営に携わっている委員からの事例等の御紹介や御意見をいただきたいと存じます。

#### ③幅広い世代の市民の参加

前回（令和3年3月～6月）の芹沢銈介作品展では、来場者約2,300人でしたが、アンケート結果（母数408件）を見ると、約6割が60歳代以上という結果でした。

また、昨夏に開催された高島野十郎展では、入場者約 4,400 人のうち、高校生以下が、わずか 123 人でした。

若年層へのアプローチは数年来の課題でしたが、今年度は、柏市文化祭へ市内小中学校の児童・生徒の作品参加を呼び掛けるとともに、①で取り上げたアウトリーチコンサートでの市民ニーズの検証やワークショップの見直し検討を通して、幅広い年齢層が参加できる事業を、企画・実施していきたいと考えています。

また、文化祭や芸術鑑賞会のような大きなイベントにおいても、各団体の発表の場と合わせて団体同士の交流や、共通のテーマによる創作活動、オール柏による場の創出など、文化・芸術活動を通じた地域づくりに繋がるよう、取り組みを進めていきたいと考えています。

子どもから高齢者まで、幅広い世代の参加や交流の方法について、委員の方々から御意見をいただければと存じます。